

『全国学力・学習状況調査』結果分析と今後の取り組み

4月18日、全国の中学3年生を対象に、国語、数学、英語、生徒質問紙の内容で調査が実施されました。以下に、本校3年生の調査結果を分析したものと今後の取り組みについて報告します。

1. 国語科

(1) 調査結果

- ・ 陵南中学校の3年生の結果は、兵庫県や全国の調査結果に若干低いもののほぼ等しい。
- ・ 話すこと・聞くことに関する事項に対しては、兵庫県の平均とほぼ同じであるが、読むことが下回り、特に書くことの力が弱い。
- ・ 選択式・記述式の問題は苦手としているが、短答式は比較的よくできている。
- ・ 述べ方の工夫を見つけ、選択肢から正解を見分ける正答率が高いが、それらを文章で表現することは苦手意識があるのか、無回答率が高い。
- ・ 古文の基礎知識についての正答率が高い。

(2) 結果分析

- ・ 文章に表れているものの見方や考え方に対して自分の考えを持つことが苦手である。
- ・ 言葉や文脈から丁寧に読み取ろうとせず、直感的に判断してしまう傾向がある。
- ・ 自分の中にある言葉が少なく、アウトプットを苦手とし、自分の考えを、根拠を明確にして文として構築することを苦手とする者がいる。

(3) 今後の取り組み

- ・ 語彙力を伸ばすために、語句の意味や漢字を覚えたり、辞書を使って意味を調べたりする機会を設ける。
- ・ 様々な文章を読む機会を増やし、的確に内容を捉える機会を設ける。
- ・ 語句の意味を文脈から類推することや、文の組み立てや文章の構成などを意識させる。
- ・ 基本的な事項は定着率が高いので、興味や関心を広げ、学習意欲を高める工夫をする。
- ・ 人の意見をしっかりと聞き、自分の考えをもつことを徹底する。
- ・ 内容を正確に伝える文・文章が書けるように練習していく。

以上の取り組みを、国語の授業で行い、総合や学活などでも身につける機会を設けていきたい。

2. 数学科

(1) 調査結果

- ・ 陵南中学校の3年生の平均正答率は、兵庫県や全国の調査結果と同程度である。
- ・ 「数と式」「関数」は、兵庫県や全国の調査結果と同程度の正答率であるが、「図形」「データの活用」は、正答率が低くなっている。

- ・記述式の問題形式での正答率が兵庫県や全国の調査結果より5%ほど低くなっている。

(2) 結果分析

- ・数学的な技能を問われる計算問題への正答率は高く、求めるものが明確な場合の問題については自信をもって答えることができる。
- ・文章を読み取り、論理的に考察し、表現することを苦手としている。
- ・「データの活用」では、確率を求めることやヒストグラムからデータの特徴を読み取ることはできているが、箱ひげ図からデータの傾向を読み取る問題は苦手としている。
- ・「説明する」「証明する」の問題での無回答率が高いことから、自分の考えを文章や数式で表現することに苦手意識を持っている生徒が多い。

(3) 今後の取り組み

- ・定期的に復習を行うことで、基礎・基本の定着を図る。
- ・記述式の問題に取り組む機会や、自分の考えを発言する機会を意図的に増やししながら、説明することに対する苦手意識を克服させる。
- ・文章を読み自分が理解できるように、読解力をつけさせる。

以上の取り組みを、数学の授業で行い、総合や学活などでも身につける機会を設けていきたい。

3. 英語科

(1) 調査結果

- ・兵庫県や全国の調査結果と比較して、聞くこと・読むこと・書くことに関する事項に対しては正答率は低く、全体的に少し下回る結果であった。話すことに関する事項は、全国とほぼ同じ平均正答率であった。

(2) 結果分析

- ・聞くことの領域について、ある特定の場面の会話を正確に聞き取ることは概ねできている。一方で、日常的な話題について情報を正確に聞き取る力が、全国や兵庫県の結果と比較して低い。また、聞いて把握した内容について適切に応じる力や、自分の置かれた状況から判断して必要な情報を聞き取る力が低い。自然環境問題や平和問題などの社会的な話題まともりのある英語を聞く機会を増やし、必要な情報を理解する力をつけることが必要である。
- ・読むことの領域について、日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取る力や、まともりのある文章のあらすじを理解する力は概ね定着している。事実と考えを区別して読み取るなど、文と文との関係を正確に読み取る力は定着している。
- ・書くことの領域について、時制を理解し、短文を書く力は概ね定着している。今後は、与えられたテーマについて自分の考えを整理し、どのように書けばより読み手に正しく伝わるのか、内容がテーマに沿ったものなのかを考えながら書くことが必要である。語や文法事項等を理解し、つながり

やまとまりのある文を書く力をつけることが大切である。

- ・話すことの領域について、基本的な文法を理解し、応答する力は定着している。与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容も話す力は概ね定着している。ただ、会話のやりとりを継続する力が非常に低い。会話で活用できるより多くの表現力を身に着けることが大切である。

(3) 今後の取り組み

- ・定期的リスニング練習を取り入れる。
- ・長文読解ドリルなどを用いて、短時間で文章の要旨を的確に捉えられる力を伸ばす。
- ・読み取った英文の表現を活用して書くトレーニングをする。
- ・ICT（ドリルパーク）を活用し、語や文法事項を定着させる。
- ・ペアワークやグループワークを多く取り入れる。1問1答で終わる形式ではなく、会話のキャッチボールを続けられる機会を増やす。
- ・間違いを恥じない、恐れない、コミュニケーションをとることや相手に自分の思いや考えが伝わるのが楽しいという実感を得られるような授業作りを心掛ける。
- ・オンライン英会話やALTとの英会話のやり取り（パフォーマンステスト）を活用し、まとまりのある英文でやり取りする機会を増やす。

4. 生活

(1) 調査結果

- ・朝食を毎朝とっている生徒が 88.5%と昨年に引き続き県・全国平均より低いものの、昨年度の本校比較では約 13%向上している。
- ・睡眠時間に関して入眠時間が安定しない生徒が 21.7%と全国平均と同程度ではあるが、昨年度の本校比較では約 9%向上している。
- ・「人が困っている時に助ける」 89.8%、「いじめは、どんな理由があってもいけない」 97.3%と昨年度の本校比較では両項目とも 3%程度低い。しかし、全国、市内平均を上回っている。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」 69.4%と大きく全国・市内平均を下回っている。
- ・「友達関係に満足している」 91.8%と全国・市内平均を上回っている。
- ・「学校行くのは楽しい」当てはまる 80.3%、当てはまらない 19.8%である。全国・市内平均と比較すると当てはまらない生徒が 3%程度多い。
- ・「普段の生活で幸せな気持ちになる」当てはまらぬが 15.7%と全国・市内平均と比較すると当てはまらぬ生徒が 3%程度多い。
- ・「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」「日本や地域のことについて、外国の人に知ってもらいたい」とともに全国・市内平均と比較を 5%程度上回っている。
- ・「自分で計画を立てて勉強していますか」当てはまらぬが 52.3%、と半数を超えている。

(2) 結果分析

- ・家庭での習い事、スマホ、ゲーム等の理由で入眠時間が安定せず、翌朝の寝起きの悪さとなり欠食につながっているのではないかと考えられる。しかし、以前より続けている啓発により昨年

度より校内比較は向上した。

- ・生徒の規範意識は高い。
- ・友人関係に満足しているが、自分と異なる意見に対して受容する意識や力が不足している。その結果、人付き合いに関する悩み等が増え、乗り越えようとする力が乏しいため学校が楽しくないと思う生徒が15%近くいる。
- ・海外や外国への興味関心がとても高い。英語の授業の充実、工夫の賜物である。
- ・学習時間については一定時間確保しているが、自ら課題を考え克服する力が乏しい。

(3) 今後の取り組み

- ・基本的な生活習慣の具体的な方法の啓発を行い、学習や運動活動の質向上につなげる。
- ・自分の意見を適切に主張するとともに、他人の意見を聞き、まとめ、自分がどのように感じたのか、異なる意見とどのように付き合うか等を考える機会を行事等を通じて身につけさせる。
- ・自らの課題、クラスの課題等を考え、克服する方法を考える、選択し実行する等の機会を増やす。